

経営課題

生産効率の向上
基幹業務プロセスの効率化

課題解決策

データと図面の一括管理
生産工程の見える化

ITによる課題解決策

CAD/CAMの導入
生産管理システムの導入

代表取締役 岡田幸雄社長



代表者：岡田 幸雄
 本社所在地：富山県富山市水橋
 172番地
 売上高：4.8億円
 従業員：36名
 創業：1991年10月1日

「何事にも挑戦し、目標に向かって努力し、
 全てに感謝すること」

板金加工業：金属鋼板を使用した工作機械カバー製作
 電気機器の筐体、建材などの製作

生産管理システムの導入とノウハウの蓄積で勝負！

社長の困りごと・想い

顧客からの少量・多品種・短納期・低価格の要求に応えるために経営資源の集中、業務の見直し、設備投資を行い競争力を高める必要に迫られていた。

- 1.加工データと設計図面をまとめて管理したい
- 2.不良品を何とか低減できないか
- 3.製品に付加価値をつけることができないか
- 4.手作業で行っている受発注管理を一括管理したい
- 5.職場のチーム力を高めたい

きっかけは？

経営者研修会に参加するなかで、以下のような経営課題が明らかになり、補助金活用、各種融資活用することとした。

- 1.生産効率の向上
- 2.品質の向上
- 3.製品の付加価値向上
- 4.基幹業務プロセスの効率化

こうして解決した

- 1.生産効率の向上
数値制御装置(NC)を動かすためのプログラムと図面管理、加工材料を一括管理するCAD/CAMを導入
- 2.品質の向上
不良低減のため事前に完成品の加工状態をチェック可能な仮想試作シミュレーション・システムを導入
- 3.製品の付加価値向上
製品に付加価値をつけると共に加工技術の向上のためレーザー溶接機を導入し他社との差別化を図る
- 4.基幹業務プロセスの効率化
手作業で行っている受発注管理～加工～出荷管理を一括管理するために生産管理システムを導入
- 5.人材育成
経営の基盤となるチームワークの養成のため、全社で5S活動を推進した

社長の一言

IT経営実践企業として認定されたことは大変うれしい。今後ともIT経営を推進して当社の経営ビジョン「お客様に安心と満足を提供し、活力と魅力のある会社」の実現を目指して、経営革新に取り組みたいと考えている。

経営者の気づき
フェーズ事例経営戦略
フェーズ事例IT戦略策定
フェーズ事例IT資源調達
フェーズ事例IT導入
フェーズ事例ITサービス活用
フェーズ事例

こうして経営課題を解決した

当社の現状は、顧客からの低コスト・短納期要求、原材料の高騰・品薄、他業界からの新規参入、代替品として鉄からプラスチックへの材質変更など、取り巻く経営環境は厳しい状況にあり、このままでは収益の悪化が避けられない状況であった。そこで、顧客からの要望である少量・多品種・短納期に経営資源を集中するために、業務を見直し、設備投資を行い競争力を強化する必要に迫られていた。

主な経営課題は、生産効率の向上、品質の向上、製品の付加価値向上、基幹業務プロセスの効率化であった。解決策として、人間系では5S活動の推進、情報系では①生産管理システムの導入 ②CAD/CAMの導入 ③仮想シミュレーションシステムの導入 ④受発注管理及び在庫管理システムの導入等を実施して経営課題を解決することができた。

課題解決のポイント

1. 経営者のリーダーシップ
岡田社長は経営改革のため積極的なIT活用に取り組んでいる。特に情報共有については社員に社内情報を積極的に開示している。
また、情報の正確性を保つため正確なデータ入力を全社に徹底している。
2. CIO的人材の存在
常川常務は社長の意向を踏まえて社内システム(情報系)を自前で構築し、先進技術(Webカメラ、携帯メール)の導入にも素早く対応している。
3. 職場での積極的なIT活用
 - ・基幹業務でのIT活用
製品は、受注～加工～出荷までバーコードで管理されて進捗状況が画面上で確認できる。また担当者毎に作業の進捗状況がリアルタイムで把握できる。
 - ・情報系でのIT活用
業務連絡は、電子メール及び携帯メールを活用。携帯電話を各グループリーダーに持たせて業務連絡や業務指示に活用している。
4. 外部人材の活用
ITコーディネータとの関わりは下記の通りである。
平成15年:「インターネット活用アドバイザー」で訪問
平成16年:「ホームページリニューアル」の助言
平成17年:「次期経営戦略企画書の策定」支援
平成18年:「5S活動推進コンサルティング」
平成19年:「バランス・スコアカードによる経営革新モデルの構築」支援

IT活用成功のポイント

1. 生産管理システムの導入
生産の進捗状況を把握するため生産管理システムを導入。バーコードリーダーからの情報を集約して生産工程の見える化が進展した。
2. 受発注管理及び在庫管理
受発注管理システムと在庫管理システムを導入し、手作業で行っていた業務の効率化・スピード化を図ることができた。その結果、受注～加工～出荷までを一括して管理できるようになった。
3. 品質向上のためCAD/CAMを導入
加工精度の向上のため数値制御装置のプログラム、図面、加工材料を一元管理するCAD/CAMを順次導入し、品質向上と生産効率のアップを図った。
4. ノウハウの蓄積と活用
受注データと加工ノウハウをデータベースに蓄積し、検索に活用している。蓄積データは15万件である。
5. ホームページを活用した情報発信
製品紹介や製作工程についてわかり易い表現を心掛けて、情報発信している。

活用した公的施策や表彰等

- ・富山県中小企業支援センター 専門家派遣制度
- ・2007年全国中小企業情報化促進センター奨励企業賞 受賞
- ・2007年IT経営実践企業 認定(経済産業省)

サ
ポ
ー
タ
ー
紹
介

氏名 宇田川静夫

ITコーディネータ/ITCインストラクター
認定番号: 0037942004C
有限会社 システムユニオン
E-mail: udagawa@sys-uni.co.jp

<キャッチフレーズ>

- ・「誠実」「情熱」「使命感」
- ・経営幹部との合意形成を図りながら経営革新をサポート